地域資源活用による観光振興等調査特別委員会

地域資源活用による観光振興等調査特別委員長　　岩崎　友一

１　日時

平成 24 年４月 18 日（水曜日）

午前 10 時３分開会、午前 11 時 53 分散会

２　場所

第４委員会室

３　出席委員

岩崎友一委員長、佐々木努副委員長、佐々木順一委員、工藤大輔委員、喜多正敏委員、名須川晋委員、佐々木朋和委員、樋下正信委員、神﨑浩之委員、工藤勝博委員、小泉光男委員

４　欠席委員

なし

５　事務局職員

本多担当書記、関口担当書記

６　説明のために出席した者

世界遺産熊野本宮館前館長　松本　純一　氏

７　一般傍聴者

なし

８　会議に付した事件

(1)　調査

「ユネスコ世界文化遺産登録を契機とした観光施策の推進について」

（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の事例から）

(2)　その他

ア　委員会調査について

イ　次回の委員会運営等について

９　議事の内容

○岩崎友一委員長　おはようございます。ただいまから地域資源活用による観光振興等調査特別委員会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。本日は、お手元に配付しております日程のとおり、ユネスコ世界文化遺産登録を契機とした観光施策の推進について調査を行いたいと思います。

本日は、講師として世界遺産熊野本宮館前館長の松本純一氏をお招きいたしておりますので、御紹介いたします。

ごあいさつをお願いいたします。

○松本純一講師　田辺市の松本でございます。きょうは委員会にお招きをいただきましてありがとうございます。お招きをいただいたのですけれども、大したお話もできないと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

○岩崎友一委員長　松本先生の御略歴につきましては、お手元に配付している資料のとおりでございます。

本日は、和歌山県熊野地方における観光振興等の取り組みを事例に世界遺産登録を契機とした観光振興の推進方策についてお話しいただくこととしておりますが、多くの世界遺産登録地においては観光客の増加を一過性のものとしないことが大きな課題である中、当地域においては世界遺産登録を契機に観光客が増加し、その後一たん減少するものの、再度増加させ、その後も横ばいで観光客数を維持されているなど、その取り組みが大きく注目されている地域であります。松本先生には御多忙のところ御講演をお引き受けいただきまして、改めて感謝申し上げます。

それでは、これから講師からのお話しをいただくことといたしますが、後ほど松本先生を交えての質疑、意見交換の時間を設けておりますので、御了承願いたいと思います。

それでは、松本先生よろしくお願いします。

○松本純一講師　改めまして、おはようございます。座ったまま失礼させていただきます。

世界遺産を生かしての観光施策ということでのお話ですが、皆様の御期待に沿うお話しになるかどうかいささか不安でございますけれども、お話をさせていただきたいと思います。その前に昨年の３月 11 日の東日本大震災では、この岩手県も大変な被害を受けたということで、お亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様方にはお見舞いを申し上げたいと思います。

私どもも昨年９月には台風 12 号の被害を受けまして、私がその当時いました熊野本宮館も床上１メーター60 センチぐらいまで水が入り、今使えない状態になっていまして、この 12 月まで復旧工事をし、12 月には再度オープンすることになっております。その当時、５日間で 2,000 ミリ近くの雨が降りましたので、120 年ぶりの水害ということでした。もうほとんどは復旧をしているのですけれども、道路については仮復旧のような状態で、３年ぐらいかけて本格的な復旧工事が終わるのではないかと思っております。

岩手県と田辺市ですけれども、結構深いかかわりがありまして、平泉町と一関市とは友好姉妹都市を締結しております関係で、昨年の３月 11 日の災害の後、一関市に対し私どもの職員が３月 13 日に出発して２トントラックでおむつとか、お水とか、支援物資を運んできて支援をさせていただきました。その後も全職員が１週間ずつ罹災証明の発行等をさせていただいたり、その後５月の連休には職員が何日かづつ支援させていただきました。これらは私どもも今後 30 年の間には６割近い確率で東南海、南海地震が起こると言われておりますので、そういうことに対する経験としても非常に役立っていることと思います。

そういう中で、先ほどちょっと申しました岩手県とのつながりですけれども、一関市の旧室根村とは私ども田辺市の旧本宮町が昭和 58 年に姉妹都市を締結いたしました。それは

室根神社にお祭りしています本宮神社と新宮神社と二つありますけれども、そのうち本宮神社が私ども熊野本宮大社の分霊をお祭りしておりまして、西暦718年、今から1,300年ほど前の奈良時代に蝦夷征伐の祈願所ということで分霊をしたという記録があるそうです。その後、新宮神社も、私どものお隣の新宮市の熊野速玉大社から分霊をしております。岩手県内には176社の熊野神社が確認をされております。全国的に言うと3,135社の熊野神社が北海道から沖縄まですべての県にあるわけですけれども、岩手県内では176社がありまして、この盛岡市内にも二つ小さな熊野神社が今でもあるようです。特に花巻市の東和町にあります三熊野神社は結構大きな神社だというふうにお聞きしてございます。そういう関係で、私も室根神社のお祭りには４回ほど参加させていただき、以後５回ほど一関市には行かせていただきました。

平泉町は、旧田辺市と昭和57年に姉妹都市を締結しているのですけれども、これは弁慶の誕生の地が田辺市で、終焉の地が平泉というふうな関係で締結をして交流を図っております。私も現役時代に１度平泉へ行って義経サミットに参加をいたしました。

それと平泉は藤原三代と言われていますけれども、藤原秀衡の説話が田辺市にありまして、私ども世界遺産登録になっている熊野古道の滝尻王子というところにその説話がございます。秀衡が子供がなかったので、子供が欲しいと熊野にお願いをしたところ、子供が授かったので、そのお礼に熊野へ来たというような説話でございます。秀衡の納めたという太刀も残されております。

そういう関係で田辺市と岩手県とは古い時代からつながりがあるということで、私もそういうことで南部のほうは以後六回ほど来させていただいたのですけれども、盛岡は今回初めてでして、たまたま盛岡市内に私の友達が１人おりまして、ゆうべはちょっと繁華街で南部美人を飲ませていただきました。

私どもの田辺市は、和歌山県の南部のほうにあります。平成17年に旧田辺市と大塔村、中辺路町、本宮町、龍神村という５市町村で市町村合併したわけですけれども、ちょっと変わっておりまして、和歌山県の中で、田辺市周辺は田辺市、西牟婁郡という地域が大塔村、中辺路町なのですけれども、郡を越えて龍神村が日高郡、私がおりました本宮町は東牟婁郡という３郡に分かれた市町村が合併をしました。川の流域で言いますと、本宮町は熊野川流域、龍神村が日高川流域、中辺路町、大塔村が富田川流域というふうに、流域も分かれておりましたので、日ごろ、いつもつき合うという行政区域でないところが合併をするというちょっと異例の合併の仕方でした。合併というのはなかなか難しい部分があって、政治的な要素等いろいろあってこうなったのですけれども、当初の計画とは違った合併になり、そんな中で田辺市は大きい市になりました。和歌山県の面積の22%が田辺市というふうに南北、東西、ともに50キロ以上の幅があります。ですから、私も本宮町から田辺市に合併して本庁に行きましたので、同じ市内で単身赴任をしました。本宮町から行った人間の中には単身赴任なり、家族ともども行ったという人間もかなりおりました。そういう広さのところですけれども、田辺市といえば観光では本宮と、それから龍神村の龍神

温泉とか、本宮町の湯の峰温泉とか、川湯温泉、熊野本宮大社がある関係で観光地なのですけれども、旧田辺市は観光地というよりは商業地と農業が主でございました。南高梅の生産ではお隣のみなべ町と合わせますと日本の生産の５割以上を占めていますので、日本一ということはイコール世界一の生産地ということになります。

それと世界遺産に登録されましたが、この世界遺産が和歌山県、奈良県、三重県、３県にまたがっており、広い地域を紀伊山地の霊場と参詣道としている関係上、どこが中心になるかといったときに、世界遺産では登録するときに代表番地というのを決めるのですが、それが熊野本宮大社のある本宮が代表番地になっております。後で地図が出るかもわかりませんけれども、幾つかの参詣道があるのですが、参詣道がすべて本宮で結接点になっていまして、そこに集まっているという状況もありまして、中心地が本宮となってございます。

それから、私どもの田辺市には世界的な博物学者の南方熊楠先生が 30 歳過ぎから住みまして、終焉の地となりました関係で、先生の住んでおられた家とともに顕彰館というものを建てまして、そこで研究をしてございます。膨大な資料がございますので、いまだに調査しきれてない状況ですけれども、先月の別冊太陽で１冊そのまま南方熊楠先生を代表とした本も出たりもしておりまして、今なお脚光を浴びているところです。

そんな田辺市なのですが、この地図、合併して最初につくったポスターがこれだったのです。田辺市には観光としての要素が少なかった中で世界遺産の本宮があったり、龍神温泉があったりするということで、これからは観光をもっとＰＲしようということと、新しくなった田辺市がこのように広い範囲で、そして和歌山県の中心に位置する、そういう状況を市民の皆様にも、合併の効果をＰＲしようということも含めてこういうポスターをつくりました。世界的観光地というふうにしましたのは、これからは世界遺産に登録されたら世界の地域からお客さんが見えるであろうということで、それに対応する観光地をつくっていこうということも含めまして、この絵の一番上のほうにうっすらと島のようなものが映っていますけれども、これはアジア大陸を入れました。入れることによって日本だけではないよ、世界を見据えた観光地に思っているのだということをアピールする意味もあって大陸の絵もかすかに入れてございます。田辺市をＰＲするために、一般的に写真であったりするようなパンフレットも多いのですけれども、この地図の絵はインパクトがあって、よくマスコミ等にも取り上げていただきました。

先ほども言いましたように田辺市は、ここに書いていますように５市町村が合併し、和歌山県の 22％を占める面積なのですけれども、人口は８万人程度しかいないところです。高速道路も大阪のほうからつながっていますし、飛行機ですと東京に１時間で来られます。私も昨日飛行機で南紀白浜空港から羽田へ来て、羽田から東京、東京からは新幹線でこちらへ来させていただいたのですけれども、案外と近いところがあるのです。

主要観光地と書いていますが、どうしても世界遺産の熊野古道が中心になるのですけれども、昨年の５月にフランスのミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで世界遺産の熊野

古道とか熊野三山等が三つ星マークをいただきました。ということは、ヨーロッパのお客さんがこれからは増えてくるのではなかろうかと思っております。どうしても今までですと、熊野古道はまだ世界的には観光ガイドブックなんかにも余り載ってない地域でしたので、これからはそれらも解消されていくのかなと思っております。

グリーンガイド・ジャポンで三つ星マークをもらったことは後でまたちょっと御説明をいたしますけれども、そのほかに私がいます本宮町には川湯温泉とか湯の峰温泉があります。湯の峰温泉は今から1,800年前に発見された日本最古の湯と言われておりますし、川湯温泉は河原からお湯がわいております関係で冬場には河原を堰きとめて大きなおふろをつくって無料で開放したりしています。

それから、龍神温泉は、日本三美人の湯と言われるところで、泉質がよくて人気のあるところです。

あと自然公園は吉野熊野国立公園から高野龍神国定公園等４カ所ありますし、食では先ほども言いましたように梅干し、ミカン、シラス、カマボコ等がございます。

それから熊野本宮大社、これが明治22年までは河原のそばにあったのですけれども、水害で倒壊をしまして、倒壊したものを山の高台に移築をして、今年で120年を迎えます。その120年前の水害以来の水害が昨年の９月に起こったというところなのですけれども、旧社地大斎原と書いている写真のこの場所に、もともとはこの建物がありました。もともとの場所から今のところへ移していますけれども、大きさは８分の１ぐらいに小さくなっております。

それから、この写真は世界遺産の熊野古道なのですけれども、こういうような僻地のところです。熊野古道は奈良から来る大峯奥駈道であったり、高野山から来るルートであったり、伊勢から来るルートであったりと幾つもルートがあるのですけれども、今一番人気は、一番上の写真、熊野古道発心門王子というところから熊野本宮大社までの7.7キロを歩くコースが一番お客さんが多い場所です。なぜかといいますと、熊野古道の発心門王子までは道路が市道でして、今まではバスが走っていなかったので、ここへ行くにはタクシーで行くか自家用車で行くしか方法がなかったのですけれども、田辺市内にありますバス会社が、世界遺産登録になるのだったら、ここまで路線バスを延ばそうと言ってくれました。

和歌山県の路線バスというのは小さなバス会社がたくさんありまして、新宮市を中心にして熊野交通バス、田辺市を中心にして龍神バスと明光バス、和歌山に行きますと和歌山バスというふうに幾つもあって、県全体を一つのバス会社が網羅しているということではなく、特異な場所だと思うのです。例えば奈良県に行くと奈良交通という会社がすべてを網羅します。三重県に行くと三重交通というバス会社がすべてを網羅していますけれども、和歌山県はそういう関係で非常に不便な部分がありますが、小さなバス会社だけにそこの社長さんの一声で結構やりやすい部分もありまして、発心門王子まで、採算が合うかどうかわかりませんけれども、とりあえず行ってくれることになって、急に環境がよくなった

関係で、お客さんがどっと行ってくれるようになりました。それで、最後が熊野本宮大社で集結しますので、そこに来ると、そこで達成感がでるわけです。そこに行ってお参りすることによって、熊野古道すべてを歩いたよという雰囲気になるということで、途中の場所も、例えば道休禅門の雰囲気であるとか、こちらの山伏の歩いている場所等々がありまして、お客さんにとっても飽きない場所でもあるので、たくさんのお客さんが歩いてくれるのですけれども、世界遺産登録になったらすぐはたくさんの人が来てくれるけれども、飽きられるとマスコミも含めて、エージェント等が次の世界遺産が登録になるとそちらのほうに行ってしまうということもありますので、今のうちにちゃんと整備したりしておかなければならないと思いまして、私どもはこの 7.7 キロの間にトイレを５カ所つくりました。一番最初に、発心門王子を出発しますと途中の水呑王子、伏拝王子、本宮大社、そして旧社地の大斎原というふうにトイレをたくさんつくりました。特にそれまであったトイレは古い昔式のトイレでしたので、水洗トイレにすべてかえました。特に最近はトイレが汚いと結構お客さんの不平不満も多いということもあって、7.7 キロで５カ所というのは多いのですけれども、休憩すると必ず、特に女性の方はすぐトイレと言われますので、ふやしました。山の上ですので、水洗トイレで水を流すことができないようなところはカキ殻を使ったバイオのトイレで、使った水を、トイレの流す水に使って循環させるという方法にしてあります。それでも手洗い水は新たな水を使いますので、最後には水がいっぱいになってくるのですが、どこかの時点で、年に一、二回はその水を、きれいな水を抜き取る作業をしています。そのバイオのトイレであったり、普通の水洗トイレをつくったりもしていますけれども、そういうことや、途中には休憩所を設けて地元の婦人会に無料で貸し出しをしております。その婦人会の皆さんが土曜日、日曜日などにお客さんに弁当を売ったりとか、コーヒーを出したりなどしてくれて、それもまたお客さんから好評いただいているようなところがあります。そういうことをすることによって、ここがお客さんにとっては一番いい熊野古道歩きの場所になったようです。取材等ありましても、必ずここには入っていただくことになっております。

それから、先ほど言いましたミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに掲載された施設ということで、熊野古道であるとか熊野三山、熊野本宮大社、それから熊野速玉大社は新宮市、熊野那智大社は那智勝浦町、この三山含めて三つ星マークをいただきました。

それから、熊野古道全体としては三つ星なのですけれども、そのうちの中辺路ルートは二つ星、それからもと本宮大社があった大斎原も二つ星。それから、一つ星としては私が３月までいました世界遺産熊野本宮館、それから湯の峰温泉のつぼ湯。このつぼ湯というのは世界遺産に登録された入浴できる温泉としてはここだけです。温泉自体は世界遺産にかなり登録されているのですけれども、入浴できる温泉としてはここだけです。

それから発心門王子という単体の王子社も一つ星になっています。世界遺産の熊野本宮館の建物がミシュランの一つ星になるというのは、一般的には考えにくいのですが、この建物の中に展示しています説明板すべてに英語表記を併記しているのですけれども、その

英語表記の仕方が非常に外国人には受けます。これがこの一つ星になった理由なのです。熊野古道が、ミシュランガイドに掲載されたのもその看板等の英語併記ももちろん大きく役割を果たしているのですけれども、私どもの本宮館の部分で言うと日本の歴史なんかを英語で表記するというのは非常に難しいのです。日本人にわかるような英語を書いても、それは外国人にはわかりづらい。例えば上皇の名前を後鳥羽上皇とか、そういうことを書いてもそれは外国人には意味をなさないことが結構多いのです。

この英訳をした人間は、後で出てきます熊野ツーリズムビューローというところで国際観光推進員として雇っていますカナダ人の方が訳しております。彼は日本でＡＬＴという、英語助手で３年間本宮に住んでいまして、そのときに熊野にのめり込んでしまって、好きになってしまって、やめて一たんカナダへ帰っていたのですが、再び日本へ来たいと、名古屋の愛知博のときにはカナダ館の説明員として来たりとか、日本が非常に好きでよく来ていました。そういう彼をビューローを立ち上げるときに雇いました。お父さん、お母さんは息子が日本に住むということで寂しかったという話はしていましたけれども、彼は喜んで来てくれて、日本の歴史も非常に勉強しました。日本語ももちろん堪能ですし、そんなことで、日本の歴史をわかっていて、日本の言葉で読んで、それを英語に訳すときにどのようにしたら外国人に伝わるかということを非常に研究しまして、仕事も夜の 12 時、1 時になってもしなければいけないときは日本人以上に一生懸命するような、そういう彼が訳した英語はだれもが賞賛するような英語です。

なかなか難しいですよね、この間、ちょっとインターネットを見ていましたら、東北博で観光庁が出した英訳がえらい間違っていてというような、啄木のことも間違って載っかっていましたけれども、ああいう英語は普通で、よくあるのです。ところが、彼が訳すとそういうことは一切ないのです。例えば世界遺産登録になった石の記念碑が各県あちこちに建っているのですけれども、彼が訳した田辺市の碑は一字一句直されることはなかったです。ほかのところは結構それなりに直されています。そのぐらいすごい。

そういう彼がたまたま私どもが本宮町時代にＡＬＴとして来たときからおつき合いをしていて、彼が熊野を気に入ってくれた関係でそういういい人材を得ることができたということなのです。二、三日前にも彼のお父さん、お母さんが来ていましたけれども、お父さん、お母さんも熊野が好きでカナダから数年に一回は遊びに来てくれて、みんなと一緒になって飲んだりする仲間なのです。そういうことがあってミシュランの一つ星を本宮館もいただいています。こんなところで何で一つ星というふうに普通の人は思うところです。木を使っているという建物では、ちょっと自分らも誇れる部分もあるのですけれども、外国人から見てそれほど一つ星に値するかなと思うのですけれども、そういうことがありまして、一つ星になっております。

世界遺産本宮館ですけれども、これは世界遺産５周年を記念して田辺市が本宮町に建設をしました。合併当時、合併協議会で本宮町が希望して建てました。世界遺産の本宮館を建てるということが田辺市との合併条件で、その分お金を持っていきました。本宮町から

は何億円の金を持っていって、それで５周年で建てたわけですけれども、100％に近い田辺市内の木を使っています。杉の木で柱は八寸角です。柱を 274 本使っているのですけれども、樹齢が 80 年から 120 年生で、平均 100 年生の木を市内の山から切り出して製材をして、それで建てております。これも建てるときに業者に請け負ってもらって、その業者が木を探していたのではとても間に合いませんので、最初に各森林組合と木材協同組合に入札をして、山で木を切ってもらって、そこで製材をして、それを提供してもらって、それで今度は建築業者が建築をするという方法をとりました。それでこういう建物ができたのですけれども、柱がたくさん立っていますが、これは森林をあらわしているようです。設計したのは東京の設計業者ですけれども、木を使うことについてはこだわりました。

この建物の中には田辺市の観光のセクションと県の世界遺産を担当するセクション、それに本宮の観光協会、それから熊野ツーリズムビューロー、それから健康と観光を意識し、熊野古道を歩くということで、熊野健康ラボというＮＰＯの団体の 20 人ほどの職員が一つのスペースの中に入っています。ですから、世界遺産の保全、保護する人と市の観光を担当する人、普通は相入れないものなのですけれども、垣根のない事務所のスペースの中に一緒にいますので、お互いに協力し合うということでやっていますので、なかなかうまくいっております。文化遺産と観光地はどこでもけんかするのが普通ですけれども、同じように顔を突き合わせて仕事をしているとそうもいかず、お互いにいいところを出して、助け合うということでやっていますので、なかなかうまくヒットしているかなと。そのことによって、私どもも助けていただきましたし、世界遺産センターの皆さんも観光サイドの助けをしたりしているので、うまくいっているのかなと思います。

本宮の観光ですけれども、表のように宿泊客数は結構苦しい部分もあるのですけれども、日帰りも含めて 130 万人前後を推移しているということで、世界遺産登録が平成 16 年ですので、平成 15 年には 60 万人ほどの入り込みだったのが今はその倍になっています。先ほど言った発心門王子から本宮へ行くルートのウオーキングなのですけれども、うちには語り部が三十数名いまして、語り部が熊野古道案内をします。歴史であるとか、花の話であるとか、いろんなことを話しながら歩きます。半日コースで１人 5,000 円、20 人までですと語り部１名で 5,000 円ということで歩きますが、それだけではなくて、最近は中高年の皆さんが多く歩きますので、健康という要素を取り入れて歩くということにも注目して、ここの写真にあります、熊野セラピストの方たちが疲労を残さないストレッチをしながら歩くとか、脳を活性化するとか、時には最初に血圧をはかって、山からおりていくときにまた血圧はかって、どの程度血圧が下がったとか、上がったとか、そんなことまで指導をしながら歩くという、これが結構受けております。この人たちが歩いている様子は、この写真で、思い切りストレッチ運動を始まるときにします。それから、これは発心門王子で最初に参拝をして、今から行きますよというところです。それから、これは大木からパワーをもらっているということで、こういうことをすることによって、生きている木を感じるということがあるようです。それから、これは歩いている様子ですが、地元のおじいさ

ん方がからくり人形をつくっているのをみんなで喜んで見ているところです。これは花のにおいをかいだりして、いやし効果があるということです。それから、間伐した木を使って森のベッドと称してここで10分ぐらい休憩するのですけれども、瞑想にふけって心身をリフレッシュさせるようです。それから、これは一緒に歩いています語り部の人がところどころで説明をしているところです。これは昼御飯を食べ終わった後にガードレールを利用してのストレッチ運動をやっているところでございます。これは熊野古道を歩いている様子ですが、歩いていると木の根っこなんかたくさんあるのですけれども、それをいかに踏まないように歩くかというような指導をしながら、脳を活性化させるということもやっております。これが最後に着いたところでの記念撮影です。

次に、田辺市熊野ツーリズムビューローですけれども、ここにもありますように 2005年５月に市町村合併しましたけれども、観光協会は旧市町村単位にすべて今でも残っております。それを取りまとめるものが必要だということで観光協議会を設立して、１年後にそれを田辺市熊野ツーリズムビューローというふうに名前を変えて設立をしました。これを2010年には法人格を得て旅行業法の第２種の免許も取って、着地型旅行を立ち上げるという体制をとりました。そして、2010年の11月にはインターネットによる旅行システムを開始しました。これは外国の方、日本人もそうですけれども、外国の方が旅行する際のインターネット上での決済システムをつくりました。外国人はほとんどカード決済ですので、これがないと旅行できないのです。カード決済ですと、最初にお金をいただきますので、もしキャンセルになってもキャンセル料はもちろん残して返せるし、ビューローがすべてお金の関係はしますので、旅館や民宿の皆さんは負担を負うことなく、その分安心してお泊まりさせることができるということがありました。

ブームよりルーツであるとか、インパクトを求めずローインパクトであるとか、そういうことでとりあえず団体客より個人、グループに絞った観光をすることによって良質な観光地になるということ。持続可能で質の高い観光地田辺市を目指すというのがビューローのスタンスです。そのために、先ほど話しましたカナダ人の彼を国際観光推進員として雇って、ホームページをつくりましたけれども、英語版、もちろん日本語版のほかにフランス語、中国語、韓国語版をつくっております。この事務所には職員の中に中国語を話せる職員もいますし、英語は彼、それからフランス語の一部も彼はカナダ人ですので話すことができます。フランス語のホームページをつくるときにはカナダからフランス語圏の方を１人こちらに招いて、そこで集中的につくってもらって、あとの手直しはカナダとデータをやりとりします。そんなことをして、５言語の対応ができるようにしています。

それから、同じように５言語のパンフレットもつくっております。こういうことでないと世界的に売り出せないということです。

それから、外国人のプレスの方に来ていただいたりとか、日本にいて外国に発信しているプレスの方を呼んだりしてＰＲをしています。

それから、これが大事なのですけれども、現地でのレベルアップ、例えば旅館とか民宿

とか、そういうところでほとんどの方、民宿なんか特にそうなのですが、英語が話せない人がいるのです。そんな人のために、カナダ人の彼が研修をします。絵をかいて、横に英語を書いているとか、日本語と英語を併記して、日本人がこうやって指さしたら、外国人はこっちの英語を読むという感じで、指さしツールですべて話できるように、しゃべられなくてもできるよう、旅館、民宿、土産物店、食堂なりの必要なことを聞いて、それでその店用のパンフレットなんかをつくっております。例えば熊野本宮大社では、英語で書いたお守りがあります。外国人が来て何に効能があるかというのを日本語でしゃべっても絶対相手にわからないので、それを英語で訳したのを置いています。外国人が来て、聞かれたら、それを見せて、指さして、これですと、この効能が英語で書いていますので、それでわかるようにしています。お守りまでそこまでしているというのは少ないと思うのですけれども、そんなことまでしております。

こういう地図なんかもすべて英語表記しています。私ども日本人がパンフレットをつくったりするときに英語にするのがめんどうくさいから日本語でさっとつくってしまうことがあるのですけれども、そうすると彼によく怒られます。必ず英語を入れるようにということは強く言われます。例えば時刻表なんかも英語で書いているのですけれども、下に発心門王子とローマ字で書いてありますが、このことは外国人にとってもいいのですけれども、日本人にとっても知らない人は発心門王子とちょっと読みにくいのですよね。それをローマ字だったら日本人でも読めますので、日本人にも優しいということでこういうのをつくっております。日本人にも、外国人にも優しいというものです。

熊野古道の看板なんかも旧村単位につくっていますので、ばらばらでいろんな看板がありました。これではお客さんにとっては全く不自然だということで、すべて統一をしました。これは和歌山県と各市町村が共同でお金を出し合って、全く同じものを、どこの町村に行っても同じ形の看板をつくりました。ですから、一つの熊野古道を歩いていて町村が変わっても標識は変わらないというものを整備しました。それに英語を皆表記しました。

それから、先ほどの熊野本宮館なのですが、展示パネルなんかに英語表記をつけるのですけれども、多分上に書いている日本語と下に書いてある英語とほとんど違うことを書いているところがあります。上は歴史を書いているけれども、彼が訳したら全然違うことを書いている。それでも外国人にとってはそのことのほうがいいということがあるようです。これがミシュランにも評価された一つだそうです。

ビューローが発信することによって、メディアがたくさん取り上げてくれました。例えばテレビの１時間番組「ガイアの夜明け」なんかにも取り上げてもらったりしましたけれども、それを広告費に換算すると 10 億円ぐらいだったそうです。

これは先ほどもありました入り込み客です。2003 年と 2010 年の対比を一番下のところでしていますので、参考にしていただけたらと思います。市街地エリアというのは旧田辺市です。熊野エリアというのは、本宮と中辺路、それで龍神というふうにエリアを三つに分けてそれぞれの数字を入れております。これも宿泊、日帰りの動態調査をしていますけ

れども、2003 年と 2010 年の比較をしております。

それから旅行タイプの変化というのは、団体旅行で東南アジア、アジア圏から来る方ははまだありますけれども、ヨーロッパ、アメリカ等から団体旅行で日本に来るというのは少ないです。日本人もそうですけれども、個人旅行です。旅行する日数も短い人で 20 日で、10 日というのはまれです。20 日から１カ月ぐらいは来るというのが多いです。ですから、熊野に来ても何かのんびりしています。宿泊日数も結構外国人の方が来たらふえます。

観光旅行の形態ということで、着地型観光が主になるということで、ビューローは旅行業の登録をして着地側での旅行手配等をすることを 2010 年 10 月から行っております。特に外国人の皆さんが熊野へ来たときに、大手の旅行会社に行きたいと頼んでも、なかなか熊野古道の入り組んだところをどういうふうに案内していいかわからない。それから提携の旅館があっても民宿しかないような場所では、そこへ手配できないということがありますので、それを熊野というより紀伊半島全体をビューローが一切面倒見ようということで、紀伊半島の奈良県にも、三重県にも、和歌山県にも、あちこちの旅館や民宿や土産物店初めいろんなところと契約を結んで紀伊半島全体を網羅した旅行会社にしております。これが田辺市熊野ツーリズムビューローなのですけれども、田辺市だけを考えていたのではいけないということで、田辺市も３年半ほどここに毎年補助金を出しているのですけれども、それでも田辺市だけのことではだめだということで、旅行会社を立ち上げてもらっています。

今言いましたようにいろんなパンフレットつくったり、ホームページで情報発信したり、現地でレベルアップをして受け入れをしているのですけれども、お客さんから言われたらどうしたらいいのということになってきたので、解決策として着地型旅行会社をつくらなければもうだめだということでつくっていったのですけれども、着地型旅行会社は全国あちこちつくっては消え、つくっては消えているように非常に難しいです。外国人の場合は特に難しかったのをビューローではホームページ上での決済をできるようにしましたので、これでかなり解決をしているのですけれども、ここに書いていますように大手旅行会社では手を出しにくい仕事でもあるし、ビジネスとしては成立しにくいのですけれども、これを成立させようということで今頑張っております。

ここにも書いていますように、旅行会社を設立するには法人格が必要であったり、いろんなことがあって、それをクリアしました。資金についてはビューローの会長が、女性の会長なのですけれども、市内にある銀行とか会社とかいろんなところへ自分で行って資金を集めてきて、市ももちろん資金を出していますけれども、資金を調達して運営しています。これは一般社団法人ということでやっていますし、旅行業２種の免許をとっています。これは、１種、２種、３種のいずれもほとんど変わらないなかで、海外での募集ができないだけであとはすべて国内含めてできるという第２種の免許を取ってやっております。２種の免許には基準資産が 700 万円なかったらだめとか、保証金が幾ら以上ということが決められております。

ビューローがあって、着地型観光事業を５つの観光協会、それから宿泊施設とか、市外の協力団体というふうにも書いていますようにいろんな団体を取り入れた中でやっております。

着地型観光のメリットと、サポート体制等については、新しい旅行システムであるとか、手数料が地元に落ちるとか、きめ細やかなサポートができる、新たな旅行商品の開発ができる等々、いろんなことがあります。自分たちのモデルコースをつくったり、オリジナルツアーを提案したりもしておりまして、そのことによって外国のお客さんも安心して熊野古道を歩けるという感じで、紀伊半島のこの範囲全体をできるだけ網羅するような形でいろんなところと契約を結んでやっております。

契約先の数は昨年 12 月現在で、今はもうちょっとふえています。2011 年４月から 12 月までの売り上げが 2,400 万円で、そのうちインターネットで 400 万円売り上げています。まだ始まったばかりですので、いい方向にいっているかなと思っております。ネット予約の利用状況ですけれども、42%とどうしても日本が一番多いです。あとはオーストラリア、フランス、アメリカ、カナダ、スペインと外国の方もかなり利用していただいております。利用する施設としては本宮が 42%、あと新宮・那智勝浦、中辺路、田辺、龍神というふうな状況で、田辺市内以外のところも結構利用しております。予約１件当たりの単価は２万 7,000 円、１人当たり１万 7,000 円という数字となっています。

東日本の震災以降、外国人の予約はすべて一度キャンセルになりました。キャンセル金額は 384 万円だったそうです。昨年９月の台風 12 号の後では、日本人からの予約キャンセルのほうがはるかに多かったようです。本宮の旅館街でも９月、10 月は観光客はゼロだったのです。旅館とか民宿に泊まっているお客さんはボランティアの人か、もしくは業者の方がほとんどでした。たまにお客さんがあっても、私はここに来て観光をしていていいのかという、そういうイメージのお客さんが多かったです。今はまだ 100%というわけではないですけれども、徐々に戻りつつあります。そういうことからも安心、安全をＰＲする必要があると。それは国、県、市などと連携をして、あちこちで行い、２月には東京でも大々的なＰＲ活動も行いました。今後の課題と取り組みということでは、ミシュランガイドに載って、フランスのお客さんがふえるだろうということで、フランス語のホームページも充実させていこう、それからスペイン語のホームページも開設しようということも今計画をしております。熊野古道とスペインのサンティアゴの巡礼道とは参詣道としては共通する部分がありますので、サンティアゴの市とは行き来はしておりまして、そんな関係で今後スペイン語のホームページも開設しようということも考えております。

今後の課題と取り組み、ヘルスツーリズムということで、先ほど言いました熊野で健康ラボや、医療機関というのは和歌山大学の医学部と連携をした取り組みなども今から模索をしているところです。

それから、エコ・グリーンツーリズムは、これはよくありますけれども、農家と連携しての農業体験。この間、日本にいる外国人の方を招いて農家民泊をしたら非常に好評でし

た。農業体験をするということが非常に好評でしたので、外国の方を呼んで民泊をして、農業体験をしてもらおうと。例えば田辺市の梅をとったり、ミカンの収穫をしたりということを含めて農業体験をしてもらおう、これが外国人にも受けるであろうというように、この間の一度やったことでの成果として多分出てくるのではないかと思っております。これは地元の観光だけではなくて、商工業とも連携をしたものにしていこうということでやっております。

教育関連、教育旅行等は熊野古道等を使っての受け入れ体制なんかも今でも大学生とか、小学生の修学旅行に熊野古道を歩きに来ていただいたりもしておりますので、そういうことも今後ともふやしていこうということです。

例えば市民とか、町内会と連携するということでは市民の皆さんが、観光客の皆さんにあいさつしていただくことでも観光客の皆さんにいい印象を持ってもらえるということとか、町内会ではお祭りを通しての地域活性化を図るとか、農林漁業では、例えば本宮でやっているのですけれども、女性を対象にした間伐作業をしてもらう山の神汗かきツアーということもやっているのですけれども、民泊をして間伐作業をして熊野古道を歩いて、熊野古道でごみ拾いをしてもらうということもしています。そういうことでお金を払ってでも来てくれる方がいるのです。

それから、教育関係では、スポーツ観光ということで、スポーツでいいますと熊野は、この間もなでしこジャパンが来て合宿をしました。熊野三山の守り神がヤタガラスということで３本足のカラスで、３本足のカラスというのが日本サッカー協会の胸のエンブレムですが、あれは昭和８年か９年に熊野のカラスをイメージしてつくりました。それはサッカーを最初に日本で広めたのは中村覚之助という今の筑波大学の方なのですけれども、その方は和歌山県の那智勝浦町出身ですので、そういう縁があってヤタガラスを胸のマークに使ったのだろうということです。これは大分県の方がデザインしたのですけれども、そういうことで私どもは日本サッカー協会に随分昔からアピールをして、熊野のマークを使っているのだから、熊野とつき合いをということで、10 年以上前ですかね、つながりができまして、今では世界大会に行くとか、ワールドカップに行くとか、オリンピックに行く前には必ずサッカー協会の方々が来て熊野三山にお参りしてから行きます。そこまでなりましたので、この間もなでしこが熊野に来てくれたのですけれども、なでしこジャパンがワールドカップで優勝したときにも澤選手はすぐ熊野三山にお礼参りに来てくれました。そういう関係もあって、サッカーを含めてスポーツを取り入れた何かをしようということで取り組みをしたりもしております。

それから、もう一つ変わったのは企業の森といいまして、世界遺産の山、それから世界遺産の周辺の山を含めてですけれども、例えば和歌山県と各市町村が共同して、サントリーだとか、パナソニックであるとか、ＪＴであるとか、いろんな企業、大きな企業、小さな企業まであるのですけれども、五十数社和歌山県には企業の森というのを設定しております。それは小さいところですと１ヘクタールぐらい、大きいところで 10 ヘクタールとか

20 ヘクタールとかあるのですけれども、そういう企業がその山の持ち主と県と市と契約をして 10 年間その山に木を植えて下草刈り等をするということをやっております。それは、環境に優しい事業をするという企業のイメージアップにもちろんつながりますし、こちらとしては、最近、非常に木の値打ちがなくなって、放置林が多くなっている中で、その木を切って、植林をすることがないので、そういう放置された山に杉やヒノキを植えるのではなくて、桜やナラという木を植えて、森林を再生させようという事業をやっております。そうすることによって、10 年間企業の人たちが春になったら草刈りにみんな来てくれて、お昼弁当は地元の人たちがつくった弁当でお金を落としてくれる。夜は泊まってくれたら、そこでもちろんお金が落ちるということと、山は山で手入れをしてくれる。日ごろの管理は森林組合が全部しますので、森林組合としても収入になるということを今やっております。五十数社来ている中で、半分は田辺市の山で契約をしております。そんなこともしております。

というようなことで、大した内容でもないのですけれども、田辺市熊野ツーリズムビューローを通しての観光についてお話をさせていただきました。当初は、世界遺産登録になるとどうしても最初の一、二年はたくさんの人が来るのですけれども、その後をどうするかということでの戦略として、まず、メーンとなるところの施設整備を行ったということと、あとはツーリズムビューローというものを立ち上げて、そこがキーになって日本だけではなくて、外国のお客さんも呼び込む施策を今やっている。今までですと、田辺市でそういうことをするかというと夢のような話でしたけれども、合併効果もあって、またそこにビューローに就任した会長が民間の企業の方ですけれども、すばらしいアイデアと行動力があって、市を逆に引っ張っていくような感じで今やっておる関係や、優秀な国際観光推進員を得たということが大きな力となって、今お客さんも余り極端な減りもなく進んでいるかなと思います。特に県と一緒になってやっている関係で、最初は関西を中心としたお客さんが多かったのですけれども、最近は東京を中心とする関東圏からのお客さんが多い。やっぱり関東圏はたくさんの人がいますので、それを呼び込むことによって、また新たな展開ができるかなというふうに思っています。

それともう一点は、最近よくＧＳ世代と言いますけれども、ゴールデンシックスティーと言って、黄金の 60 代という、私が全くその真っただ中におります。私どもは田中角栄の列島改造から始まって、役所に入った当時は非常に安い給料だったのですけれども、昭和 40 年代からずっと右肩上がりに給料も上がって、それなりに最後まで給料が上がるような状態で来ました。もう家もある、車もある、特に外食したから何を買うという時代ではなくて、孫に小遣いを上げるような世代で結構それなりに、私はどうか知りませんが、一般的に裕福、資産のある程度ある世代なのです。ところが、今の 50 代以下は岩手県の職員はどうかわかりませんが、和歌山県では給料は上がらないです。田辺市では 40 代、50 代では役職がつかない限り給料が上がらないような状態がずっと続いていますので、結構大変な、余りお金を使ってくれないところなのです。その点、将来はわかりませんけれども、

60 代は今は結構いい時代です。この人をいかにつかまえて観光に結びつけるかというのが重要で、これも私どもも何とかしなくてはならないのですけれども、今来てくれるお客さん、特に熊野古道という、歩くということと健康とプラスすることによって、結構取りつきがいい部分があります。この方々をいかに取り込むかというのもこれからの戦略の一つになってくるのかなと思っております。

そういうつたない話をして、本当はもう一つのほうを話したかったのですけれども、もう時間が随分過ぎてしまったような感じがしますので、これでとりあえず一たん終わりたいと思います。

もう一点だけよろしいですか、私どもの世界遺産は道が主になってきますので、道は人が来ると大変荒れます。世界遺産登録があって、たくさん人が来まして道が結構荒れました。荒れた道をどうするかということで、今皆さんに道普請に来ていただいています。土代もちゃんと買って、そのお金を出してまで作業をしに来てくれる、そのツアーが結構最近多いのです。それも環境に配慮した、みんな何かをしたいというボランティア精神が昨年の、特に東日本大震災以降そういう部分が多くなってきているのかなと思います。そういう道普請をするという、世界遺産を使った新発想の観光というのですか、今まではおもてなしするばかりだったのですけれども、逆にお客さんが作業をしに来てくれて、それでいて旅館に泊まってくれて、金を落としてくれるということが今熊野では多く見受けられます。世界遺産に登録されたところを修復するのに素人ができるというのは道だけなのです。例えば建物の修復ということはできないのですけれども、道ですから土入れをしたりするというのは市の文化財の担当者、県の担当者がいて、指導さえすればみんな自由にできます。そういうことを今観光ツアーの一つにしております。そういう新たな発想での観光というのもお客さんを呼ぶ一つになっているのかなというふうにも思います。

そういうことをつけ加えまして、つたない話で申しわけなかったのですけれども、話を終わらせていただきます。

○岩崎友一委員長　松本先生、貴重なお話ありがとうございました。

それでは、これより質疑、意見交換を行います。ただいまお話しいただきましたことに関し、質疑、御意見等ありましたらお願いいたします。

○神﨑浩之委員　それでは、冒頭にさきの震災では大変お世話になりました一関の議員でございます。どうもありがとうございます。お礼を含めながら質問をさせていただきたいと思います。

私も４年前に熊野古道を見させていただきました。その視察の目的は、広域合併だったのです。一関市も７市町村で合併して田辺市さんも先ほどのお話のとおり大きな範囲で合併された､そういう大きな合併をしたところの視察で行った際に見させていただきました。

質問は二つなのですけれども、一つはこの世界遺産の売り方ということ。平泉も一般的には中尊寺の金色堂しか多分皆さんのイメージになくて、その中で浄土思想なのだということで、これも売り方がなかなか地元でもわからないわけです。中尊寺を見て、金色堂を

見て写真を撮って帰るというくらいしかなかなか表現できなくて、売り方がわからなくて困っております。

熊野古道とか、那智の滝とか有名で、田辺市さんのほうも３県にまたがる世界遺産という中で熊野古道という山道、それからいろいろと神社があるのですけれども、広過ぎて、どこをどう見ればいいのか、行きたいのだけれども、行けないというのが我々から見てもあるのですが、そこで後半のこの資料が世界遺産の大義みたいなものがあって、きょう御説明いただいた最初の資料というのが大義のための細かい仕掛けづくりみたいなものが書いていると思うのですけれども、こういうふうな大きな世界遺産、それから観光、そういうふうな中で田辺市さんがそれを取り入れて、観光客にアピールしているいろんな仕掛けがあるわけなのですが、その田辺市さんの売り方について教えていただきたいなと。そして、いろんな取り組みがあるのですけれども、それがここまでまとまった経過というのはいろいろあると思うのですよね。こういうことを売ろう、こういうことをやろう、外国人もこうやろう、ビューローをつくろう、それからインターネットでできるようにしようみたいにしていった御苦労とか､そういうことをちょっとお聞きしたいなと思っていました。それが一つであります。

それから、もう一つは、外国人の観光客にアピールし、それから数もすごくふえていますよね。実は平泉も昨年の６月に世界遺産になったわけなのですが、その前の年は中国の方を含めて結構外国人観光客が来ていたわけなのですけれども、昨年の震災以降、特に原発の関係で今一切外国人が来てないのですよ。中国の方も全然来てないということで、東北に来ないのは、まあいいとしても、いろいろ話を聞くと世界の中の日本というのはちっちゃい島国なのですよね。ということで、もう日本全体の島が、あそこは原発でだめなのだみたいなイメージがあるようなことをちょっと聞いたわけなのです。確かに東北のほうは外国人観光客が来ていないということだったのですが、田辺市さんのほうでは原発絡みの関係で、日本全体のイメージの関係で、外国人の方が来ていらっしゃるのかなということを日本全体として心配なのですが、あわせて御質問させていただきたいと思います。

○松本純一講師　先ほど説明したようなことは、一つには田辺市というものは合併し、広くなり合併効果が上がった中で観光が一番にぎやかな部分というのですか、外にＰＲする部分もしやすいということもあります。もう一つは人だと思うのです。観光の場合には特に市とその担当する職員であったり、今回ビューローを取りまとめた女性の会長であったり、国際観光推進員の彼を得ることができたとか、そういう人があって、すべてがうまくいくのかなと思っております。私らも含めてそうですけれども、普通に行政としてやっておればそんなに苦労することないのになということだって結構あるわけですよね。そこをいかに、特に観光の場合は自分もそのことがおもしろくてしたいという人間でないとなかなかうまいこといかないのです。それと私どもの田辺市はお隣に白浜町という有名な観光地があるのです。もう少し南だと那智勝浦町があって、北のほうに行くと高野山という観光地があります。ここなんかはそれなりの観光地ですけれども、田辺市なんていうと全国

的にもほとんど知られていないようなところで、単体的に熊野古道であったりとか、龍神温泉であったり、川湯温泉であったりというのは関西ではある程度はわかるのですけれども、そういうところをどう売り込んでいくかというときに、職員であり、そういう上の者も含めてみんなで頑張っているという中で、和歌山県の観光担当の方も随分協力をしていただいております。田辺市の場合、県と協力してどこかに行って、ＰＲするという範囲のお金というのは出せるといいますか、それなりの組織ですので、一緒に行ってＰＲすることはもちろんできる。単体で行ってするほどでもないけれども、一緒になってできるというところがあって、県との協力体制というのは非常にとれておりまして、県の観光担当の職員の皆さん、観光連盟の職員の皆さん、よく田辺市には来ていただきました。結構本宮町時代からそのことが続いていまして、時には他の町村から本宮ばかりと言われるときもありましたけれども、そういう人とのつながりが結構うまくいくことがあるのかなと思っています。結構苦労をしていると思われますが、職員もそのことによって半分楽しんでいますので、苦労もあるのでしょうけれども、それは楽しくみんなやっております。答えになっているかどうかよくわかりませんけれども。

それから、外国人の関係は、先ほども言いましたように震災以降すべてがキャンセルになりましたけれども、この間の４月 15 日が熊野本宮大社の例大祭でお祭りがあり、その前の日には合気道の指導者が来て模範演技なんかしていましたけれども、外国の方も結構来ていましたし、最近はよく見かけるようになりましたので、大分違ってきたかなと思います。戻ってきていると思います。

この間、東京で小説家の荒俣宏さんと食事をする機会があって一緒に話をしていましたら、荒俣さんが出ていたＮＨＫのＢＳテレビでの番組の司会をしていた女性の方が外国の方で、震災の後、すぐ本国フランスへ帰ってしまって、番組がそこですべて中止になってしまった。ずっと続いていた番組が中止になったと荒俣さんも言っていました。外国人はすごい、日本すべてがだめになったというようなとらえ方をするねという、日本という島国の小さなところですからという話もしていましたけれども、「実は和歌山県の紀伊半島というのは原発のあるところから一番遠い県」と荒俣先生に言ったら、「それは売りやな」と。昔は、和歌山県にも２カ所発電所をつくるというのがあって、もう大変な政争になりました。結局できなかったのですけれども、それがよかったというのですかね、そのことによってよそから電気をもらっているから、そんなことで喜んではいけないのですけれども、そういうふうにして今は遠いとかということを言いますけれども、それでもお客さんにとっては日本は小さなところみたいですね、外国の方に話を聞きましたけれども。やっぱり最初はすべてが危ないというとらえ方をしたみたいですけれども、多分もうこれから戻ってくるのではないですか、平泉なんかも多分そうだと思います。落ち着いて考えたら大丈夫だということになるみたいです。

○工藤勝博委員　すばらしいお話ありがとうございます。平泉の遺産もそうですけれども、熊野古道の遺産も自然と歴史のある大変すばらしい観光地だと思います。そういう中で、

先ほど外国人が魅力を感じる、そういう表記をしたり、発信できるというのは国際観光推進員の人材を確保したということ、それはすごいすばらしいなと思いました。そこまで至る一つの過程ですよね、やっぱりそれを魅力のある人材が田辺市に来て、そこに自分の能力を発信したいと、そういう受け入れる側の魅力と、彼のまたそういう素質ですか、発信したいという思いが結びついたのかなと思いますし、そういう点が一つと、あと今度は着地型の観光事業を立ち上げるということ、これもまた政治的な取り組みだろうと思います。そこまでしながら、やはり登録されたら、一時的にわっと伸びると、それをいかに維持、持続するかということでも本当にすばらしい取り組みだろうと思います。その事業も含めて１点もう少しお聞きしたいなと思います。

○松本純一講師　国際観光推進員の彼のことなのですけれども、彼は私どもと一緒にＡＬＴで３年間過ごした後、もっといたかったのですけれども、ＡＬＴの延長は３年で終わりますので、一たん泣く泣く帰りました。その後、日本に魅力を感じるのと、外国の方はカナダから日本へ来るというのはそれほど遠く感じないのです。私がカナダへ行くといったら、一生に一度行くか行かないかわからない。彼らはつい来るのです。つい来ると言ったらおかしいのですけれども、日本人はツアーで行くとかと言って、結構高い金を払わないと行けないのですけれども、彼らは一番安い飛行機を探して、それで日本に来たら、各地に友達をつくりますね。その友達のところから通ったりしながら来たりします。ＡＬＴをやめて帰ってからでも北海道でスキーのインストラクターをしたりとか、愛知万博にも来たりとか、そのたびに熊野へ来て寄っていって、遊んでいってくれるのです。私もお友達でしたし、私の部下に、最初に日本語を教えた職員がおるのですけれども、彼がまた酒飲みで、お互いに友達だったものですから、そういう人間関係で彼は何とか来たいとずっと思っていたし、私どもも何とか田辺市で一緒に働きたいという僕らの思いもあった中でビューローができるときに、世界的観光地にするためにやっぱり国際観光推進員が要るというふうな中で、一も二もなく彼に話をしたら、彼は喜んで来てくれることになりました。お父さん、お母さんは日本にずっと住まれたらつらいなという寂しい思いもあったのでしょうけれども。そういうお互いに思いが通じた部分があったので、彼はそのかわり一生懸命仕事もしてくれました。

彼は日本人をお嫁さんにして、子供も去年の暮れに産まれましたので、もう多分いるのではないかなと思っています。それほど高い金を払ってないのですけれども、この間もビューローの会長にこれだけしてくれたら給料上げたらと言ったのですけれども、そのぐらい安いと思います。

きのう、世界旅行ツーリズム協議会というのがあって、そこは世界の旅行業に関連する団体 100 社ぐらいでつくっている協議会ですけれども、そこが国連とタイアップして毎年すぐれたそういう団体を表彰するというのが 12 年前にできたらしいのですけれども、これまで日本が応募しても一度も通らなかったのを昨年、彼が論文を書いたら一発で通りました。世界で管理型部門で３団体が選ばれます。日本ではあちこち応募していますけれども、

そこに選ばれること自体、ビューローが初めてだったそうです。あとノルウェーとインドネシアか何かがなって、きのうの夜、そこから１位を決めるものがあり、残念ながら１位はノルウェーの団体ですけれども、その３団体に選ばれること自体がすごいらしくて、よその団体から問い合わせがあって、何でビューローが選ばれたのか、私ら何年もここに応募しているのに一つも選ばれないというようなことを書いていましたが、これはやっぱり日本語と英語をお互い知っていて、歴史を知っていて書く、相手の心をくすぐる書き方をするのが受けたのかなというふうに思っております。

それから、着地型旅行ですけれども、一つにはビューローを立ち上げてから市から 3,000 万円ほど毎年委託金をもらっていますが、これはいつまでも続かないだろうと。合併でできた当初は、これはいいけれども、そのうちに補助金は減るだろう、委託金は減るだろうというのがビューローの会長の思いでして、これを何とかひとり立ちをさせなければならないということで、お金もうけするための方策の一つとして着地型旅行会社を立ち上げて、そこで金もうけをしようというのが始まりです。その間は、ひとり立ちするまでは当分市も 3,000 万円程度の金を出してよということでやっていますけれども、まだ地に着いたばかりで、なかなか金もうけというところまでもいっていませんけれども、そういうことをすることによって、田辺市のＰＲにすごくなっています。そのことは、市にとっても非常にいいことですので、多分、市とビューローとの二人三脚がうまくまだ続くだろうと思うのです。今ビューローには、事務局長は市の職員が出向しておりますけれども、事務局長と国際観光推進員の彼を入れたら７人ぐらい職員がいるのですけれども、そのうち６人はビューローが採用した職員で、国からの事業で補助をもらって雇用している職員もいますけれども、人間をこれだけ雇うというとどうしても費用は結構かかりますので、大変で、金もうけをしないとだめなことになります。着地型旅行で田辺市内だけのことをするのだったら、絶対金もうけにならない、絶対にすぐしぼんでいってしまうと思うのですけれども、広く高野山から、吉野から、三重県含めて、またがる県すべてを含めた着地型の旅行会社にして、そういうところと契約を結んでいますので、これはそのうちにお金もうけできることは可能ではないかと思っています。特に先ほど言われましたように熊野古道はどういうふうに歩いて行ったらいいのだろうと、幾つもルートがあって非常に難しいです。日本の旅行会社、いろんなところの窓口に行って聞いてもだれも説明できないです。よくこっちへ電話がかかってきます。こちらでどうしたらいいというような、いろんなところから電話が逆にかかってくるぐらい難しいです。それだけにビューローはそのことがすべてわかりますので強みです。特に外国人の方は今まで、熊野に行こうと思っても行くすべがわからなかったと。外国での旅行会社に言ってもだれもわからないし、日本の大きな旅行会社に言ってもわからないし、だからそういう面ではビューローはホームページを見ていただいたら、それぞれ５カ国語ですので、大体わかる。それに国際観光推進員の彼なりに電話での対応がもちろんできますし、これからは熊野へ来るお客さんはビューローを通じたツアーになってくるのではないかなと思います。外国人の方ですから、３泊も４泊も

する方が多いので、そういう面ではお金も落ちるし、カード決済もできるように、インターネット上の決済もできるようになりましたので、お金の取りはぐれもありませんので、うまくいくかなというふうに思っています。そんな感じでよろしいでしょうか。

○工藤勝博委員　もう一つ、紀伊半島３県のすばらしい自然も含めて観光をうまく活用したお話かなと思っております。たまたま雑誌なんかでもイーデス・ハンソンさんが出ている記事を見ることがありますけれども、やっぱりそういうある程度著名人が地元、自分の住んでいるところを発信するというのもこれまた大きな力になるのかなという思いもしております。先ほどなでしこジャパンが熊野神社で祈願するということも含めて、そういうパワーを与えるスポットだということも、またすばらしいなと思います。それらをこれから世界に向けて発信するということが国際観光推進員の彼の力を入れているところだと思いますけれども、国内の旅行者が減少するという状況の中で、外国人をいかに取り込むかということ、これがどの観光地にも必要だろうと思いますけれども、そういう点、田辺市さんでは先進的な取り組みなのかなという思いがしております。外国人に関してどれだけのリピーター客があるのか、さらにまた先ほど３日、４日いても全体回りきれないかなりな広範囲なところなのですけれども、それらを含めてこれからどういう取り組みといいますか、誘客を図っていくのかお聞きしたいと思います。

○松本純一講師　着地型旅行会社は 2010 年にできたばかりで、好きな方は来られているのですが、まだリピーターというところまでは、ちょっとそこまでのデータがないのです。スペインの方でこちらに何回か来てくれた方もありますけれども、広い範囲ですので、皆さん今回はここに行ったけれども、こっちは行っていないとか、日本人ももちろん同じなのですけれども、そういう面ではこれからは期待できる部分は大いにあると思います。特に今までは、外国人は東京、京都、大阪という、このルートでの観光客がほとんどでしたので、京都へ来た人が高野山へ来るというルートは多少あったのですけれども、熊野はほとんどアメリカとかヨーロッパのガイドブックでは皆無に等しかったのですが、和歌山県も含めて積極的に外国へ行って商談会を開いたりとか、いろんなマスコミを呼んで対応をしたり、うちは国際観光推進員が結構フランスに行ったり、アメリカに行ったりとかして、マスコミにも売り込みをしたこともあって、徐々にそういうガイドブックにも熊野は載り出しております。そんなこともあって、今からお客さんというのはふえてくる可能性は大いにあるのかなというふうに思っております。

○小泉光男委員　世界遺産登録といいますと、普遍性が求められるということですけれども、私にとっての古道という部分が世界遺産の価値があるのかなと、それよりも先生も説明されましたけれども、世界には巡礼の道という部分であちこちに歴史的にあるようです。熊野古道の売りの信仰の道という部分が受け入れられたのか、そういった意味では世界遺産登録しようというところから決定までの期間で特に苦労された点があれば教えていただきたいと思います。

○松本純一講師　熊野古道は３県にまたがる広範囲なところが指定されていますけれど

も、最初に民間の方が熊野古道を世界遺産に登録しようという話になったときには和歌山県内の熊野古道だけを世界遺産にという話でした。それに民間の方が言っていたのですけれども、そのときの和歌山県知事だった人が、もう３代前の方が、ちょっとその話に乗ったのです。一緒に熊野古道を歩いた。今はそこは世界遺産登録されていないところですけれども、乗って一緒に歩いて、五感で感じる熊野古道とかいろいろなことでやりました。知事が動くと県の職員みんな動く。それから、地元で行きだしたのですけれども、文化庁のほうで熊野古道だけでは、これは登録にならないと。それで、次に高野も入れて、高野と熊野の宗教の絡みも入れて、高野山と熊野は熊野古道がありますので、それも入れてやっていたのですが、それだけでは足らぬということで、吉野を入れました。吉野から本宮に通じる大峯奥駈道がありまして、これを入れた。ところが、奈良県は奈良市内の世界遺産の法隆寺でもう要らんよと。それほど県として乗り気でなかった。南のほうの市町村は乗り気だったのですけれども、県としてはそんなにたくさんあってもという雰囲気があった。乗りは悪かったですけれども、これも入って、そうしたら伊勢から来る道もそうだろうということで、それも入れようということで、徐々にふえていったのです。三重県には世界遺産がなかったので、三重県としてもそれは喜んですると言って、三重県は一番最後に立ち上げましたけれども、最後でも一番いろんな成果物つくるのは速かったですね。和歌山県が窓口になって音頭をとって三つをまとめる形でしましたけれども、私も世界遺産になる１年前の教育委員会におりまして担当しましたけれども、次から次へとふえてくると本宮だけはどの道も該当するのです。ふえることによって、その道の測量から始まって、地権者の了解を得ること、いろんなことがふえてくるので、もう要らんわと、そのぐらい思いましたけれども、今となってはそれはたくさんの道がふえて、それがすべて本宮に集まっているということで、それは売りになっていますので、田辺市としては非常に、今となってはラッキーでしたけれども、当時私は大変だったです。ちょっとしたこと、すること、することにもいろんなことを文化庁の申請、いろんな道を直すにしても何するにしても結構苦労したなと、今になってみたら思いましたけれども。

そのかわり、それによって湯の峰温泉のつぼ湯という小さなおふろが世界遺産に入浴できる温泉としては最初になりました。熊野本宮から新宮につながる熊野川も、川が参詣道として世界遺産登録されたのは初めてですし、三重県から新宮周辺の浜辺も世界遺産に、参詣道になっていますので、こういうのは非常に珍しいものが世界遺産になっています。そのおかげで新宮市は、世界遺産の川を船で下るという事業も立ち上げてやっていたりとか、そういうようなことがそのことによってできているということはあります。

私どもは、随分若いときから山歩きしましたので、その熊野古道になっているところを歩きましたけれども、最初は世界遺産にするといったときにとても信じられなかったです。普通の山道が何でと、これが世界遺産かと、これ地元の住民が特にそうでした。そのことによって、人がたくさん来れば田舎の家ですから、戸締まりなんかほとんどしない家だったのが大丈夫かとかいろんな話がありました。僕はよく、その該当する集落に行って、お

話をして、大丈夫だということと、みんなでお客さんを迎えてあげてほしいとか、そんな話は随分しに行ったことがございます。

○岩崎友一委員長　ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岩崎友一委員長　それでは、ほかにないようですので、本日の調査はこれをもって終了いたします。松本先生、本日はお忙しいところ、大変ありがとうございました。

委員の皆様には県内調査及び次回の委員会運営等について御相談がありますので、しばしお残り願います。

では、次に６月に予定されております当委員会の県内調査についてでありますが、調査候補地はお配りしている資料のとおりであります。御意見等はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岩崎友一委員長　なしというお声もありますので、当職に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岩崎友一委員長　御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、８月に予定されております次回の当委員会の調査事項についてでありますが、御意見等はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岩崎友一委員長　特に御意見等がなければ、当職に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岩崎友一委員長　御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。